



1998年 新春号



JR京都駅ビル



新春を迎えて

支部長

真塚 達夫

明るいニュースでもあれば心から新年おめでとうございますと軽く口に出てくるのですが、重苦しい寅年を迎えることになりました。出口のみえない不況トンネルを走り続けているといわれる建設業界ですが、公的資金の投入と特別減税の復活で、この1~2年内に晴れ間がみえてくる様にして欲しいものです。全産業の投資額の20%を建設業界が担い、雇用人口の10%が建設業界で、この10年間で100万人の建設従事者が増えたのだから、失業者の受皿としても不況の調節弁として意味があり、まだまだ地方のインフラ整備は必要です。日本沈没という金融破綻も数千兆の個人・法人の資産を生かす工夫で騒ぎたてることもないし、株価が下がって、世の不況が実感出来る人々は幸いです。昨年末のボーナスは公務員も含めて前年比増加し、悲観的に考える日本人の悪いくせと人のせい(政府のせい)に対する精神構造が不況を招くのかもしれません。建築に携わる我々は志高く、経済不況よりも精神の不況を憂えるべきで、文化を形成する建築に精進していきたいものです。性能設計の旗じるしもこれまでの技術の蓄積を有効に生かせる様にたなびかしたいと思います。



先が見えない、読めない年

副支部長

馬瀬 芳知

1998年新春に際して誠に不謹慎な表題とお叱りを被るかも知れませんが、まず政府の行政改革について、橋本総理大臣が「政治生命を賭けて行う」と断言した割りには、期待外れの内容に止った感があります。国のために、国民のために行革が、党利党略が優先した改革といってよい。又、景気対策を含めた財政改革も無策と言つてよい程何もしない、何も出来ないのが現状で、消費税をアップしたのが響いてか、個人消費の落ち込みが酷く、金融業界、証券業界の相次ぐ不祥事がさらに景気浮上の足を引っ張る格好となり、日本経済はお先真っ暗、先が見えないのである。

さて、設計業務も仕様規定から性能規定と法改正が秒読みとなった現在、「性能規定」の意味は理解出来ても、我々の日常業務にどの様な問題が発生し、どの様に変化していくかは、現状では手探りの状態であり、先が読めないのである。



新年を迎えて

保野 博

昨年はあまり良い話がありませんでしたが、如何が新年をお迎えになりましたでしょうか。

最近は国際的規模で経済が語られるようになって来て、公共投資の多少を一喜一憂するだけでは済まない事が多い様です。当関西支部も昨年15周年を迎えましたが、先輩方から見れば一体何をしているんだとのお叱りは痛いほど感じています。

「大震災を経て何か世の中に役に立つ事が出来たのか」、「身内でしか通用しないことで済ませたのではないか」等のご指摘には忸怩たる思いがあります。我々自身先が見ていない事もあって外から見て普通の事が理解出来ず、自分達は建築にとって良いことをやっている筈との思い上がりに気づくのは何時の事になるのでしょうか。その一端を担えるような組織でありたいと考えております。その為にも地域で認められる職能団体でありたいものです。

「茶の湯とラグタイム・ピアノのタベ」

開催にあたって

岡本 達雄

平成9年、J S C A 関西支部は創立15周年を迎えました。今回の催しはこの記念事業として企画されたものであります。

現在、日本では世界標準にあわせるべきであるというかけ声のもとで価値観が揺れています。我々が身を置く建築業界も厳しい状況が続き将来の方向も不透明さを増しています。このような時に日本にルーツを持ち世界に通用する価値に触



茶の湯と音楽のタベ

(株)竹中工務店

川合 智明

阪神大震災以降、社会の耐震技術への関心が高まる中で、これから構造家は、専門の枠を超えた幅広い見識と、一般の人々との交流が求められている。そのような主催者の理念のもとに、J S C A 関西支部15周年記念事業が開催された。この理念は、「茶の湯とラグタイム・ピアノのタベ」として具体化され、発想に少々飛躍はあるものの、結果はすばらしい催しとなった。幅広い見識を文化の深化ととらえ、その手がかりとして茶の湯を選び、一方、人々との交流のヒントを世界共通の言葉である音楽に見出そうということである。そして、茶の湯の世界から武者小路千家家元の千宗守氏、音楽の方は、ラグタイムのトップピアニストである池宮正信氏が招かれ、二部構成で行われた。開始前のホワイエでは、薄茶が振る舞われ、まさに五感に響く催しとなつた。

「茶は薬用として始まり後飲料となる」という岡倉天心の言葉の紹介から始まった千家元の講演では、茶の湯の歴史を語りながらその文化の本質をわかりやすく説かれた。薬用の茶が、禅宗の茶礼という儀式を通じて茶の湯として成立する過程は、茶の湯が人と人とが対面し、時間を共有するための非日常空間として確立したことを見ている。常に生死の際にあった戦国武将が支配する中世において、茶の湯が禅とともに広まった理由が納得できる。

また、この当時の堺という街の特殊性について、経済集中とそれに伴うストレスに満ちた状況があり、武家と同じく堺

れる機会を持つことはとても貴重なことであると思われます。今回、講演をお願いした武者小路千家の家元千宗守氏は家元としての多忙な日々の傍ら精力的に世界に茶の湯を紹介しておられますし、ピアノ演奏をお願いしたラグタイムピアニストの池宮正信氏は京都出身でアメリカを中心に活躍されている世界のトップアーティストであります。

J S C A は建築構造技術者の集団では



商人にも茶の湯が受け入れられた。千利休は、その境遇において独自の美を築いたアバンギャルドであった。堺商人が「市中の山居」の茶室にこもって、ストレスを解消し、あるいは商談の場所としたことを聞くと、茶室は現代人にこそ必要な場所との思いが強くした。

私は、以前に武者小路千家の新茶室の設計に携わったことで、官休庵をはじめとする茶室と露地に接する機会を得た。その際の貴重な体験が思い出された。たとえば、七夕の涼しげな飾りが床に施された頃に、打ち水に瑞々しい緑の景色を葭戸越しに見つめたこと。また、松葉が敷きつめられた露地の飛石を渡り、入った席に松籜のごとき茶釜のたぎる音が静けさを一層増していたことなどである。そして広くない空間に生起するこのような密度の高い経験を通じて、自然が凝縮した小宇宙の存在を感じた。

また、そうした世界を構成する茶室や露地に凝らされた技の切れ味は鋭い。たとえば、武者小路千家を代表する編笠門を例にとると、柿葺の極めて薄い屋根は、一種の木造シェルである。単純に形態を写しただけでは到達し得ない繊細な技がある。その門の雨垂れに木端立てされた桜炭を見れば、大胆な中にも緻密に計算された素材の使い方が分かる。床の間の軸や花、香にしても、漢籍や古典の知識を持つ人ほど味わい深く感じられ、まさに日本文化の精髄がここに見られる。

第二部の池宮氏のラグタイム音楽も、

講演者

武者 小路 千家 家元 千 宗守氏
ラグタイムピアニスト 池宮 正信氏

ありますが、建築に携わる者としては広く社会文化活動にも造詣の深い教養人の集りであります。特に関西を中心活動する者として、関西に縁りのある世界一流の方々をお招きして、J S C A 関西15周年にあたる年に、このような記念事業を催せましたことはJ S C A の新しい一頁となったのではないかと思っております。



黒人靈歌の起源からヨーロッパへの影響にいたるまでを、楽しい解説を交えた迫力ある演奏で紹介され、大いに楽しむことができた。千家元が、毎年新茶室で催されている茶論コンサートと同じく、知性と感性の両方が満たされたコンサートであった。

このような企画を構想し、実現された構造家諸氏の情熱と行動力に敬意を表するとともに今後の活躍を大いに期待するものである。



ラグタイムにふれて

(株)大林組建築設計部

畠 史子

今、この文章を書いているこの部屋には2台のピアノがある。1台はグランドピアノでもう1台はアプライトピアノだ。ごく普通の狭い日本の庶民の家の一部屋であるこの部屋で、2台のピアノは一番偉そうにしている。この部屋の主は私な



のに、寝るときもピアノの下に足をつっこんで（オーバーだが）隅っこで小さくなっている。

なぜ、こんなことになっているのかといふと、私は幼い頃からピアノを習い、その道のプロになろうとしていた。もちろん、両親は最初からそんなつもりでいた訳ではなく、当時、お稽古ごとの中でピアノがもっとも流行っており、兄が習うことになり、オマケで私も始めただけだった。だから、別に自分で興味があった訳ではないので、こう弾きたいああ弾きたいというでもなくただ習っていただけだった。自分から積極的に弾きたいものがあったわけではないので、自然と受け身の姿勢となり、当時私が習っていたのは、「音楽」ではなく「音学」だった。毎日毎日何時間も、それこそお正月ももちろん、基本的には365日休まずだった。修学旅行の次の日がコンクール当日で出場するなら修学旅行は行けないというような環境で、そういった状況が、「音学」と私が言う所以の1つの出来事だ。それでもずっと続けていたのは、心の底では好きだったからではあると思う。（決して皆が同じ状況ではないはずだが...）

結局、思うところがあって、ピアノではなく、建築の道を目指した。そしてしばらくの間は頑なにピアノを弾くのをやめていたのだが、ここ最近何か音楽で楽しみたいと思っており、私は、音楽のジャンルにはこだわらないと基本的には考えているが、どうせなら聞くだけではなく自分も参加できるほうがきっと楽しいだろうと思い、ピアノを再びえらんだ。ジャズピアノを始めたが、なかなか楽しめない。上手くならないわけではないのだが...。

ここまで何を自分の愚痴めいたことをぐちゃぐちゃと書き連ねてきたかというと、今回「楽しかった」からだ。訳なんかわからないが、とても楽しかった。ラグタイムの音楽史における位置づけや、その演奏スタイルについてなんの予備知識も持たずに聞いたのだが、そんなのは全くいらなかった。まっさらだったぶん構えのようなものもなく「音楽」を「音学」としてしまうこともなく頭ではなく心にはいったのかもしれない。などと思いながら、いやいや、考えるとロクなことはないぞと一方で打ち消して、買ってかえった楽譜をもってピアノの前にすわることにした。

普段、つかっていないところ（頭のなかでも心のなんでも）に新鮮なものがはいってくると心がふくらむような気がする。また、それとは別に音楽はたとえ同じ楽譜でも演奏する人によって全く違う物になるが、それは音楽が楽譜の中の音と音との“間”で成り立っているからだと思う。その“間”というのが、その人の個性の現れであり、そういう意味では設計という仕事にも相通じるのではないか。具体的にどうとは言いにくいが、ただ計算するのでは、誰でも同じ設計になってしまふが、その“間”的ようなものによってその人の設計になるように思える。

「仕事のことばかり考えんと、たまには音楽とか聞いてゆったりとすれば」と勧められて参加した会だったが、その通りになった。月並みな言い方だが、普段なかなか自分ではふれることのないものでも積極的に参加しようと思うものの、重い腰はなかなか上がらない。勧めてくれた上司に感謝といったところであろうか。



あそびと感動

ピアニスト

鹿島 幸子



自然の微妙な色の差が目にとまり、心中に深く染み透る事がある。

その時の自分の余裕（遊び）と受け止め方で、同じ物でもとても違ってくる。できる事なら長い様で短い一生、より多くの感動と豊かな心が欲しいものだ。

“茶の湯とラグタイム・ピアノのタベ”が、開催されるという。行く、そう決めて秘かに楽しみにしていた。どちらも私にとって嬉しい企画だ。普段ステージに上がっている私にとってとても気楽で、また興味深い。

お抹茶を頂く。そして千宗守氏のお話。茶の湯は、山閑としたところではなく都会の雑踏の中の密室で、はじめて必要なものだという事。そして禪宗の座禪。座

禅を二時間ぐらいして眠気覚ましにお茶を頂くらしい。その時はじめて師家と話しが出来、自分で不安に勝つものを見つけ、身につけるという。ふーむ成程。

多忙なスケジュールをこなしていた時ティーラウンジへ少しの休憩時間に走ってお抹茶を頂きに行っていた自分を思い出す。流れる様に時が過ぎていく中で、静かにお抹茶を頂く事がとても良かった。

そして「お茶室を建てる時、一番気をつけなくてはいけない事は何ですか。」という質問に対して、「遊びの空間。遊びです。」と答えられた。拍手喝采。

“遊び”これがなければ人は感動しにくい。生きているという証は、全身の感動ではないだろうか。他から強制されるものでも、命令されるものでもなく自分自身、つまり命そのものから湧き出て来るものだ。嘘もない。少しでも多くの感動に出会いたい。単なる広い床の間やそういった話ではなく、人生においてもこの“遊び”が一番必要なのだろう。多くの意味を含んでいると思った。

こんなに素敵な企画なのに客席は、満員ではない。とても勿体ないなどと思ってしまう。

ラグタイム・ピアノが始まる。ピアノの音が耳に心地よく響く。ラグタイムの説明も交え、だんだんにぎやかになっていく。喜びにあふれ笑顔で弾いている池宮氏のお顔を拝見していると、こちらまで陽気になれる。

黒人靈歌には、すごく穏やかな感動があった。レニー・ピータースの静かに始まる歌声。

“事を始めると、心静かに感じる事。”という言葉が、浮かぶ。暗闇に一筋の光が射し込みやがて夜が明ける。人々は朝のあいさつを交わし、各々の人生の一日が始まる。各々の手の中にあるものを暖めながら、出逢いがあり、別れがあり、何かが自分の中に残っていく。彼女の歌声と混っていく。

最後はサックスも入り、再びにぎやかなサウンドが広がる。

CDは持って来ていた枚数完売。すごい事だ。ステージの運びが上手だ。クラシックに近くすんなりと耳になじんだのだろうなと思いつつ勉強になった。

普段出逢わない自分にすっかり逢いに来てしまったと思いつつ、いい気持ちで心地好い秋風に吹かれながら会場を後にした。

第2回JSCA関西支部 若手構造技術者の育成講座開催!

平成9年11月28日 大阪建築会館

開会挨拶及びインストラクター 9:30~9:40
の紹介

講演 9:40~10:40
.PI(第2期)パイロットビル他
質疑応答

構造計画留意事項 10:40~11:30
・テーマの説明

グループ分け及び昼食(休憩) 11:30~13:00

構造計画実習 13:00~15:00
5グループに分かれて同一テーマについて構造計画を行う

各作品の発表及び 15:10~17:10
ディスカッション
グループごとに発表を行う

まとめ 17:10~17:20

懇親会 17:20~18:00

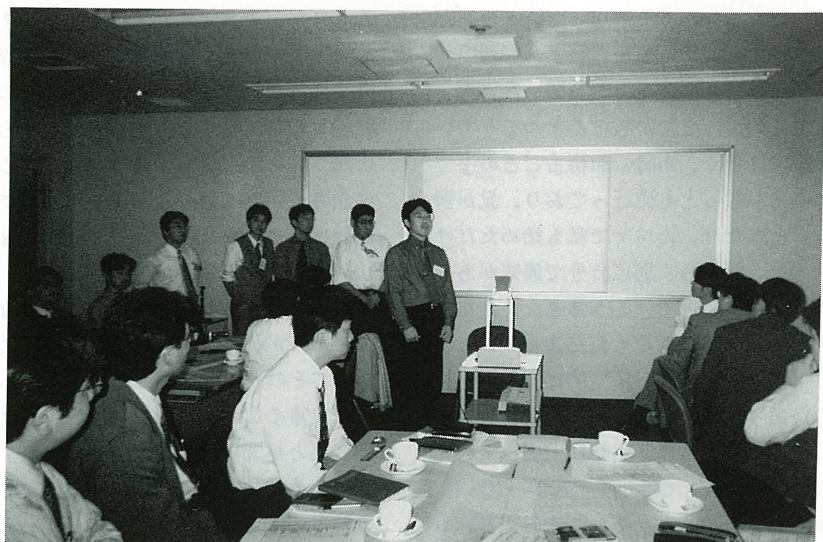
若手技術者育成講座開催
にあたって

事業委員長 鹿島関西支店
辻 幸二

若手技術者育成講座の第2回目が、11月28日に大阪建築会館に於て開催された。本講座は、一般の講習会と異なり、第一線で活躍している他社の技術者と膝を交えて丸一日過ごすことによって、若い技術者各々が考えなければならないことのヒントを摑むことを目的とする主旨で、前事業委員長の日下部弘氏の発案で、昨年第1回目が開催され、大好評を博した。そこで、本年も引き続き本講座を開催すべく、受講希望者を募集したところ、40名の申し込みがあった。

希望者全員が受講できたら良かったが、本講座の主旨と、会場の都合等で本年度は先着の29名（当日の欠席者2名）で開催することとなった。インストラクターは、木構造・構造計画分科会の以下のメンバーに依頼した。

日建設設計	角 浩一
日総建	上仲茂生
大林組	阪本隆敏
竹中工務店	田中利幸
鴻池組	田辺太一
鹿島	辻 幸二
清水建設	東 健三
山田建築構造事務所	宮崎英也
安井建築設計事務所	森高英夫
講座のプログラムは、午前中が講演と	



構造計画の留意事項の説明、午後から5グループに分かれて同一テーマについて構造計画を行ない、その成果作品の発表とディスカッションを行なう形式で進められた。講演は、オイルダンパーと鋼製ダンパーの2種類の制震装置を組み合せた事務所ビルと、高強度材料を用いた超高層RC集合住宅、2件の設計事例の紹介を行なった。その後、竹中工務店の田中氏から、構造計画及び構工法の選定にあたっての留意点について、ポイントを絞った説明があり、特に重要な点は、体験談や自分のポリシーを交えた説明がなされ、受講生のみならず、インストラクターにも深い感銘を与えた。昨年の講座では、午後の構造計画の実習の直前にグループに分けてから、グループディスカッションに入った関係で、スタート直後は各メンバーが打ち解けるまでかなり時間を要したという反省にたって、本年度は、昼食前にグループ分けを実施して、昼食と一緒に食べながら自己紹介等を行ない午後のスタート直後から、実習に取りかかるよう改善した。

構造計画の実習では、各グループ共に活発な討議がなされた。昨年は、実務の経験年数にかなりの開きがあったのか、積極的に議論をリードする人と、殆んど討議に参加しない人の両極端に分かれたような印象が強かった。それに反して、今年の受講生は、殆んど全員が討議に参画して、手際よく役割分担を調整しながら構造計画を進めていったように思う。

実習問題は、昨年と同一とした。昨年は4グループの中で3グループがロコスト化を指向し、8mグリッド（問題用紙に8mグリッドの破線が入っている）にこだわった計画が多かった。今年は、その反省を踏えて、構造計画のコンセプトを最初に討議すること、8mグリッドにこだわる必要がないということを、構造計画の留意事項の説明の際に強調した。

作品の概要をかいづまんで紹介する。

●基礎構造

A杭基礎 (B, Dグループ)
直接基礎 (C, Aグループ)

●上部構造

A: S造純ラーメン架構。屋根梁は、32mの平行弦トラス。

B: 1階RC造、2階S造の混合構造。
2階床梁の14mスパンにPS採用。
屋根梁は、タイロッド付アーチトラス。

C: S造プレース併用ラーメン
スパン 8m × 16m

D: S造純ラーメン。

スパン 8m × 10m, 12m

E: S造プレース併用ラーメン

2階は、32m × 32mの無柱空間とし、屋根はサスペンション構造。

何れの作品も、2時間という極めて短時間の成果としては、良くまとめられていた。作品紹介のプレゼンテーションも手際よく進められた。唯一の反省材料としては、各グループの作品発表に対して、受講生からの質疑が少なかった点である。次回の改善テーマとしたい。インストラクター、受講生の皆さん御苦労様でした。

受講者感想文から

A氏

この構造設計という仕事をはじめて5年経ちましたが、このような講習に参加するのは初めてです。他社ゼネコン・設計事務所の同世代の人がどの様に考え仕事を進めているのかを話すことができ、自分との違いを感じることができたことは、とても有意義であったと思います。又、数人のグループで課題を行うことは、大学以来でしたので懐かしさを感じました。

講習は一日と長いもので有りましたが、時間はとても短く感じました。講習内容も鹿島建設・辻先生の事例紹介、竹中工務店・田中先生の構造計画論（？）とありました。しかし、話の内容を全部把握できた人は少なかったのではないかと思う。事例が大きすぎると思います。もう少し若い時の失敗談を聞けたら為になつたのではないかと思う。

この講座のような趣旨のものは、私たちの世代にとって貴重な講座ですので、今後継続して頂きたいと思います。ご指導ありがとうございました。

追伸：案内状に参加費￥0000一あり、と記載していただければ、帰社時に請求しやすいのですが…。

B氏

・前段のお話について

構造計画に対する留意点などを、2部の印刷物とともに伺いました。どれも一度は出くわしたことのあるような、または聞いたことがあるようなことでしたが、ある程度設計を経験した現在の自分から見て、まだまだ自在に使えるような技術にするには相当な勉強が必要であると感じました。どれも設計作業を始める前に検討事項として頭に入りていなければならぬ事項ばかりでしたが、実際に自分が設計を行おうとする場合このうちいくつかは欠落していることがあるように思います。今後設計を行っていく上での良い道標となりました。

・課題について

おそらく私を含めた多くの人にまずはじめに浮んだのは「物販→ローコスト→短工期→8mグリッド両方向プレー

ス構造」ではないかと思います。そして次の瞬間思うのは「J S C A講習会→全部で5チームが提案する→差別化したい→無理矢理スパンをとばす」となったのではないかでしょうか。そんな中ではじめに8mグリッド案が浮んできました私の発想の貧困さに憂いつつも、32mスパンをとばす方法として2つの案を班内で提示することができました。それは、駐車場を無柱にする逆アーチ案と、1Fを無柱にするフレンデール案です。他の班を見ていたのも8mグリッド案はタブーと考えたのか、何とか特色を出そうとしている点はとても興味深いものでした。そういうことを通じて「物販→ローコスト→8mグリッド」という方程式をいかに崩していくかというのは構造設計者として他と差別化していくためのひとつのかつであるということを強く感じました。どの案でも必ずコスト的なことを質問されていましたが、どれも明快に対抗できるような理由づけを持っているように見えませんでした。柱を立てれば安く済むに決っているわけだから、今後生き残るためにいかにコスト以外の部分でも自分の頭の中の引き出しを多く持つ必要があるかという、非常に大切なことを学んだように思います。

・全体として

同年代の構造設計者の活動ぶりが課題に反映されているようで、とても興味深いものでした。今回J S C Aと関わりを持ったのは初めてだったので、J S C Aにいる方々の雰囲気をある程度感じ取ることもできました。どうもありがとうございました。

C氏

非常にエキサイティングな1日でした。講演では実務においても数が限られた物件についての内容だったので午後からこういった系統の計画をするのかとドキドキし、午後の実習ではグループ内で早々に発表担当と決められてドキドキし、順番が回ってくるまで、いや、発表が終るまで正気じゃなかった様な気がします。やっと落ち着いてと思うころにはもう終了！とにかくホッとしました。

個人的に有意義と思われた点

- ・実務をしている中で、同じ世代の人と話をする機会がなかったので、その機会を持てたこと。
- ・同じ年代の人がどの様に考えているのか（自分と同じ部分、又違う部分）が分かったこと。
- ・人前（グループ内、外）で、発言することができた。
- ・自分の意志で何かやろうとか、能動的に考えることができた。（理論的に納得させることは出来なかったが…）

残念だった点

- ・時間が短かかった。
- ・計画の中でどうしても皆コストということが頭から離れず（我がグループは）一般的になってしまった。（＝構造を計画すること自体を楽しめなかった）（来年は一般的な例を紹介し、それを禁じ手とするともっと楽しめたりするのかも）
- ・懇親会が短かかった。
- ・顔見知りとなったのは、グループ内だけに留まった。（せっかく20人以上も参加してたのに…）

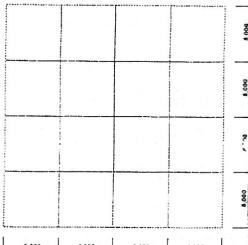
以上が感想です。28日はありがとうございました。



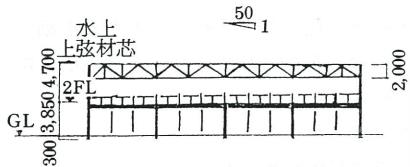
演習課題

下記の構造計画条件に対して、①構造計画に基本コンセプト、②基礎構造計画、および③上部構造計画（架構形式、構造種別、床構造など）を提案して下さい。

- 用 途：1階店舗、2階駐車場
- 梁下高さ：1階3.0m および 2階2.5m
- 地 盤：GL-0m～-10m
粘土（N値 5程度）
GL-10m～-15m 砂層（N値35程度）



A案



J S C A・関西建築コンピュータ懇親会
主催による「性能規定型設計に
関する講演会」報告

（株）熊谷組関西設計グループ
沢辺 繁克

平成9年11月14日、（株）日本建築構造技術者協会関西支部、関西建築コンピュータ懇親会主催による「性能規定型設計に関する講演会」が大阪健保会館において開催され、現在検討されている性能規定型の建築構造基準の枠組みと考え方について紹介がありました。以下に講演の概要をご報告致します。

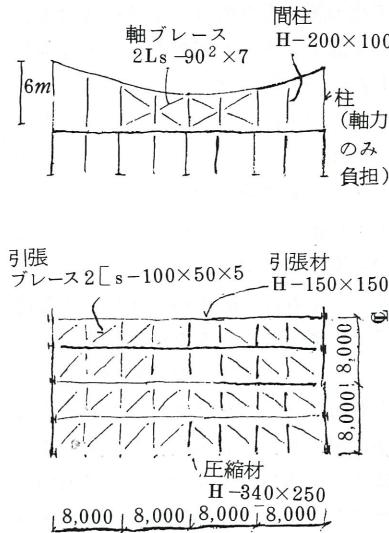
1.はじめに

建築構造基準の性能規定化とは、建築物の要求性能水準を明確に規定することであり、想定した荷重・外力に対して建築物の状態を明確に定めた上で、要求される構造安全性に対する適合性を検証することと定義している。ただし、性能規定といえども、必要最小限の規定化であることに変わりなく、それを上回る水準に関しては設計者と建築主との協議で行われるものとしている。

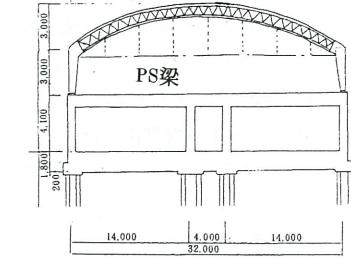
2.性能規定型構造基準の基本的構成

構造安全性に対する適合性の検証方法は4つのルートに大別される。第1の新たなルートは、現行の保有水平耐力の確

E案



B案



受講者リスト

	氏名	勤務先	経験年数	性別
A	宮内真一	（株）神崎組	9 29	男
	藤原史朗	大和ハウス工業㈱	3 25	男
	吉武英洋	（株）山下設計	4 29	男
	中村琴美	住友建設（株）	3 26	女
B	濱野輝久	戸田建設（株）	5 29	男
	平木克也	（株）構築計画	6 28	男
	今村一義	（株）日総建	8 29	男
	山本幸治	（有）幹構造事務所	3 24	男
C	湊泰介	（株）ZEN建築構造事務所	4 28	男
	佐治木計彦	（株）安井建築設計事務所	3 29	男
	安江 稔	（株）三建設	7 30	男
	三村浩平	高松建設（株）	2 26	男
D	川島一郎	NTTファシリティーズ	6 27	男
	山本孝信	（株）構造計画研究所	4 28	男
	片山良一	（株）松村組	3 27	男
	田中祐介	（株）SDネットワーク	3 28	男
E	植林充	村本建設（株）	3.5 27	男
	山田和明	（株）小野建築設計事務所	4 28	男
	貝谷淳一	（株）能勢建築構造研究所	2.5 26	男
	小林早苗	（株）東畑建築事務所	7 29	女
F	山中勇司	トリスミ集成材（株）	6 30	男
	幸風直樹	（株）長谷工コーポレーション	1.5 25	男
	近藤雅之	（株）倉建築設計事務所	3.5 28	男
	岡孝之	（株）新井組	5.5 30	男
G	児玉修祐	（株）平田建築構造研究所	2.5 22	男
	山口敏樹	大和ハウス工業（株）	7 29	男
	小倉裕之	清水建設（株）	3.5 28	男

認に代わる新たな検証方法である。第2のルートは、現行の構造計算を基本とした検証方法であり、第3ルートは、一定規模以下の小規模建築物を対象とした、現行を基本とする構造規定（仕様規定）であり、また第4のルートは超高層建築物のように特別な審査が必要な建築物などを含むものである。

3. 建築構造物の要求性能水準

建築物に対する要求は、以下の3段階である。(a)人命保護：人間が生存可能な空間を維持できなくなる状態に至らない。(b)損傷防止：構造安全性の維持に支障がある損傷を生じない。(c)機能性の確保：機能性を損なう変形等を生じない。また、各々の要求性能に対する外力レベルは以下の通りである。(a)人命保護：想定すべき最大級レベル（地震、風、雪）(b)損傷防止：建築物供用年限中1度以上遭遇するレベル（地震、風、雪）(c)機能性の確保：日常的に（複数回）作用するレベル（雪）

4. 要求性能水準に対する適合性の検証方法

(1)想定すべき最大級レベルでの検証方法は、地震力による最大変形量が限界変形量以下であること、風及び雪による最大応力が限界応力以下であることを確

認することである。地震の場合には、等価線形化による応答スペクトルを用いた解析手法等、風と雪の場合には、静的弾塑性解析法の解析手法等を想定している。

(2)1度以上遭遇を想定するレベルでの検証方法は、地震、風、雪のいずれに対しても、構造骨組各部での応力が限界応力以下であることを確認することとしている。ここでの限界応力とは、概ね弾性挙動範囲で設定されるものである。(3)恒常に（複数回）作用するレベルの検証方法は、限界値の設定そのものに課題の多いところであり、「慎重な検討が必要」としたところで言及を留めている。

5.おわりに

「性能規定化」の意味は、建築基準法の要求の内容を性能の表現によって明確化すること及び、その要求を実現すための方法について高い自由度を確保することとしている。その結果、新たな技術の発展が促進され、最終的には、建築物の性能を建築主が選択できるようになるというのが望ましいことであろうとしている。

「性能規定型設計」の法制化のスケジュールは本年3月の通常国会に提出、6月通過予定。施行令等については1年程の時差があり、施行にはさらに1年程かかる見通しのことである。

現場見学記



「アジア太平洋インポートマート」
(国際総合流通センター)
全日本コンサルタント(株)
岡本 森廣

10月17日(金)見学会の当日は初夏を思わせる暑い日となった。私は10月15日(木)より長崎の出張中で長崎湾岸に繰り広げられるウォーターフロントのプロジェクトを長崎湾で航行してエキゾチックな感傷に浸り、今迄とは一寸違ったプロジェクトの在り方を頭の中に描きつつ日本構造技術者協会・関西支部のアジア太平洋インポートマート見学会に是非とも参加したく思い長崎駅9時発宮崎空港行きの列車で小倉に向った。

講習会の案内を頂いた時、現在、プロジェクトで張弦梁構造を計画していたことも、小倉駅の鉄道振動に対する免震構造は私の本業の鉄道構造計画とは切っても切れない関係にあることから、すこぶる魅力的で参加意欲をかきたてるには充分の事業プランであった。

暑い中で展示場棟と流通センター棟のプロジェクト趣旨デザインコンセプト、



設計、施工上、特に留意した事項や特異点について親切で入念な説明を日建設計・鹿島・フジタ・若築建設工事JVより受けた。

九州からアジアに向けた新しい流通ルートの構築を目指した構築物であり小倉駅北口の賑わい演出の拠点施設でもあり、又、21世紀にはばたく北九州のシンボルとして期待されている。

ここで述べる展示場棟はスパン75.15m、桁行108m、天高13mの無柱大空間を2種類の曲率を交互に配した張弦梁構造で実現している。この2種類のアーチは波のイメージをデザイン化しており屋根材もプレーンなステンレスシート材

貫通する為、軌道と建物の間に防振ゴムが設置され、音の遮断が図られている。

見学時は足場も取り除かれ建物全容が姿を現わし、モノレール・鉄道施設の工事中でありました。関係者各位の熱き想に接し、無事工事完成後、北九州市民の中心施設として発展する事と思います。

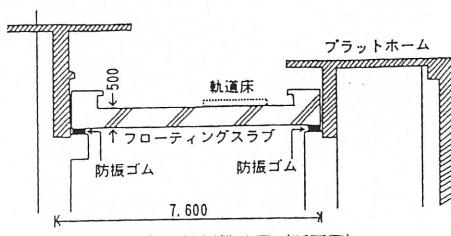


図-1 防振構造図(断面図)

(YUS270)採用によって、よくなじむと同時に臨海地区の塩害に強く高耐食性を保持し、シーム溶接によるジョイントの継目は高度の信頼性をもつため長期間の耐久性が期待されることがある。構造的に屋根材の温度応力による伸びと張弦梁構造のそれの違いは留め付けのディテールで吸収されるところで数値的に、明確化していないことである。

主体構造はハイブリッド構造として円形鋼管の立体トラス鉄骨アーチ架構と構造用ケーブルを合成した形式がうまく功いている。又、ケーブルは建築センター評定で耐火被覆が課せられ、85mmのストランド径がPE被覆で99mmと太くなっただと聞いたが空間構成上からの見え掛かりも、本当にスレンダーであり気にはならなかった。一方、床スラブは5t/m²の耐力を持たせてあり重量物の展示物搬入・搬出作業にも柔軟性があり、その自由度が高いものであった。一寸、気になったのは床工事と天上面工事が同時並列に行え効率的であったが天井工事用仮設の重量がかなりのもので構造設計上もヘビーとのことで何となく納得しかねた面もあつたが、この施設が当初目的通りの成果を發揮するよう念じて現場を離れた。

建物概要

■建物名称	(仮称)新小倉駅ビル
■所在地	北九州市小倉北区浅野1-1
■設計者	九州旅客鉄道㈱ 鹿島設計エンジニアリング トニーチコンサルタント JR九州コンサルタント
■施工者	鹿島・九州工業・鉄建建設 清水・戸田建設
■用途	駅舎・公共連絡通路・店舗 ホテル・貸事務所・駐車場
■延床面積	74,771.95m ²
■高さ	軒高 GL+55.1m ² 最高高さ GL+62m
■構造基礎	直接基礎 (KP MAT逆打工法)
■軸体	鉄骨鉄筋コンクリート構造 (CFT柱)・鉄骨造
■特徴	高張力鋼・耐火鋼(FR鋼) ・浮き床スラブ
■外装	PC版タイル打込 外国産石(中国他)
■工期	1995年7月～ 1998年4月

会員紹介

浅山 太

◎ 浅山建築構造事務所

(自営)

◎ ゴルフ・つり・キャンプ



ゴルフ歴4年。本気になれないままのある日「100を切れない人は構造設計者にむいていない云々」の記事を読み変に納得、転職も考えましたが、「100を切る」方を選択。日々精進しております。

「歌って踊れてゴルフはシングルの構造士」をめざします。宜しくお願ひします。

山浦 晋弘

◎ 安井建築設計事務所

◎ マラソン・ゴルフ・

野球・水彩画・読書など



夏休みに、二十年ぶりに釣竿を物置から出してきて子供と渓流釣りを楽しんだが、親のほうが熱中してしまい、女房からまたビヨウキが出たと言われる始末。なにしろ、休日にしたいことがありすぎて、どれも中途半端になっている。週休五日制だと何とか消化できるのだが。

第12回 囲碁同好会

平成9年11月1日

Aクラスの部

準優勝	山下 裕治	株クボタ	八段 ⑤
優勝	五藤 健三	株クボタ	八段 ②
	長井 栄治	株日總建	五段
3位	古田 正夫	株クボタ	四段
4位	野中泰二郎	京都大学	四段
敗者優勝	藤白 修市	株東京ソイリサーチ	四段
	亀井 功	株大林組	四段
	山田 裕治	株山田建築構造事務所	四段
敗者3位	八木 大児	株平田建築構造研究所	三段 ①
	田丸 直次	株日浦建築設計事務所	三段 ①
	土居 健二	フドウ建研	三段
	米原 常夫	鹿島建設	三段
敗者準優勝	尾崎 忠義	エース・エンジニアリング	三段
	山盛 保男	詳建築設計	二段

Bクラスの部

準優勝	山田 廣次	株小河建築設計事務所	初段
3位	観音 延平	株大林組	初段
	小松原 操	株小松原建築構造事務所	2級
優勝	日下部 弘	株富士昭技研	2級
	山中 靖男	TK設計	2級 ①
	井口 忠義	井口設計	4級
敗者優勝	野田 勝久	東洋テクノ	6級

*○内の数字は、第1回から第11回までの優勝回数。

支部だより

第1回 囲碁親睦会

日時：11月1日(土)

場所：囲碁サロン「欄柯」

参加者：21名

第2回 役員会

日時：11月6日(木)18:00～20:00

場所：大阪ビジネス会館

議題：97年度事業中間報告、決算中間報告、97年下半年度事業予定 他

第2回 JSKA会

日時：11月12日(木)

場所：読売CC

参加者：41名

「性能規定と性能設計」講演会

日時：11月12日(木)

場所：大阪府建築保険会館

講師：緑川光正氏(建研国際基準研究官)

参加者100名

若手構造技術者育成講座

日時：11月28日(金)

場所：大阪建築会館 参加者27名

京滋会講演会

講師：「構造設計者に何ができるか」

五十嵐定義(株)日本建築総合試験所理事長

日時：12月5日

場所：学芸出版社ホール

参加者：18名

「性能規定と性能設計」講話会

日時：12月5日(金)

場所：西本町インテス会議室

講師：小川富由氏(建設省住宅局建築指導課)

●JSKA関西インターネット

ホームページアドレスの訂正とおわび

昨年5月ホームページ開設以来、多くの方々の御利用をいただいておりますが、アドレスに一部下記のまちがいがありましたので、訂正しおわびいたします。大文字、小文字の差でありアクセスには気を付けて下さい。

誤 URL <http://www.mmj.jp.or.jp/>

JSKA-Kansai/

↓

正 URL <http://www.mmj.jp.or.jp/jasca-kansai/>

●編集後期

明けましておめでとうございます。

この1月17日をもって阪神大震災発生から丸3年を迎えた。未曾有の混乱からたくましく復興していく阪神間の街並は、我々建築構造を仕事の糧とする者にとって、大きな励みです。社会と共に出来る構造性能を目指して、巾広く活動を進めたいものです。新年に当たり、会員諸兄のますますの活躍をお祈りいたします。(西村・田中)

平成9年11月12日(木)晴
於 読売カントリークラブ
参加 42名 *印初参加

第28回 JSKA会成績表

	NAME	OUT	IN	GROSS	HDC	NET	FANX
1	多賀野 公	甫	4 4	4 0	8 4	1 8	6 6 優勝
2	青木 仁		3 8	4 2	8 0	1 2	6 8 2位
3	* 山崎 勇		4 4	4 4	8 8	1 6	7 2 3位
4	杉村 光	雄	4 3	5 0	9 3	2 0	7 3 4位
5	杉森 康	行	4 9	4 9	9 8	2 4	7 4 5位
6	多賀 秀	俊	5 0	4 8	9 8	2 4	7 4
7	竹内 忠	彦	4 3	4 4	8 7	1 2	7 5 7位
8	尾崎 忠	義	4 7	4 1	8 8	1 2	7 6
9	馬瀬 芳	知	4 2	4 2	8 4	7	7 7
10	後藤 文	吉	4 7	5 1	9 8	2 1	7 7 10位
11	山下 康	行	4 6	4 6	9 2	1 5	7 7
12	谷尾 俊	弘	5 0	5 1	1 0 1	2 3	7 8
13	山田 知	治	4 4	4 9	9 3	1 5	7 8
14	* 中島 福	信	5 0	4 8	9 8	2 0	7 8
15	山本 豊	弘	4 4	4 6	9 0	1 2	7 8 15位
16	小松原 操		5 3	4 7	1 0 0	2 2	7 8
17	真塚 達	夫	4 4	4 4	8 8	9	7 9
18	伊藤 孝		4 9	5 0	9 9	2 0	7 9
19	松浦 英	一	5 5	5 4	1 0 9	3 0	7 9
20	* 二宮 博	之	5 4	5 5	1 0 9	3 0	7 9 20位
21	脇山 広	三	5 2	5 6	1 0 8	2 2	8 0
22	大飼 一	夫	5 2	5 1	1 0 3	2 2	8 1
23	南貴	義	5 1	5 7	1 0 8	2 6	8 2
24	江西 修		4 8	4 8	9 6	1 4	8 2
25	長塙 優		5 4	5 3	1 0 7	2 5	8 2 25位
26	飯田 和	明	4 8	5 0	9 8	1 5	8 3
27	田安 光	世	5 1	4 3	9 4	1 1	8 3
28	平見 肇		4 4	5 2	8 6	1 3	8 3
29	* 唐木 実	千成	5 0	5 1	1 0 1	1 8	8 3
30	北畠 憲	雄	5 4	5 9	1 1 3	3 0	8 3 30位
31	竹之上 謙		5 4	4 4	9 8	1 5	8 3
32	俣野 博		4 7	5 4	1 0 1	1 7	8 4
33	日下部 弘		4 9	5 0	9 9	1 4	8 5
34	勝丸 文	彦	5 5	5 6	1 1 1	2 6	8 5
35	谷丸 正	英	5 3	5 0	1 0 3	1 8	8 5 35位
36	三好 祐	司	5 8	5 6	1 1 4	2 9	8 5
37	宮本 義	博	4 5	4 9	9 4	5	8 9
38	* 川西 崇		6 8	6 0	1 2 8	3 6	9 2
39	大西 博		6 1	6 4	1 2 5	3 0	9 5
40	伏見 光	雄	6 0	5 9	1 1 9	2 2	9 7 B B
41	* 塩田 丈		8 2	8 1	1 6 3	3 6	1 2 7
	広口 征	男					

ペスグロ：青木
ニヤビン：多賀、宮本、杉村、尾崎、三好、馬瀬、山田
ドラコンジュニア：長塙、杉森、山本
シニア：馬瀬、伊藤、真塚、安田、安田(ジュニア分)
次回ハンディ：多賀野10、青木7、山崎14
平均ストローク：101.4

発行 (社)日本建築構造技術者協会

関西支部事務局

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル3F)

Tel・Fax 06-446-6223